

# 研修 だより

糸島市立一貴山小学校  
平成27年7月29日(水)  
学力アップ部

6年1組の子どもたち、福田先生ありがとうございました！！

【単元名】筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう。

「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」

【本時の目標】

- 単元を貫く言語活動である「先生たちに本を紹介しよう」を意識しながら、文章の工夫（表現・構成など）を読み取り、交流を通して文章の工夫を分類すること、さらに文章の工夫の効果から筆者の意図を読み取るうとすることができる。【関心・意欲・態度】
- 先生方に「時計の時間と心の時間」を紹介しようという目的意識をもち、文章の工夫（表現・構成など）、さらに工夫の効果から筆者の意図を読み取ることができる。【読むこと】
- 交流を通して、文章の工夫をカテゴリー別に分けたり、工夫の効果から筆者の意図をまとめたりすることができる。【読むこと】

【本時の展開】

1 前時までの学習を想起し、本時学習のめあてをつかむ。

- (1) 先生方に紹介文を書くという単元のゴールを想起させる
- 2 納得させるための文章の工夫を見つけ、なぜそのような工夫をしたのか考えるという見通しをもつこと

めあて

文章の工夫を読み取り、紹介文に生かそう。

一貴山小学校の6年生として、学び方のモデルを示していただきました。



3 文章の工夫から、筆者の意図を読み取る。

- (1) 文章の工夫を個人で読み取る。

- ・具体例を挙げている。
- ・実験の方法や実験結果が書いてある。
- ・実験の結果がグラフにかいてある。

- (2) グループ交流でカテゴリーごとに筆者の工夫を分類し、筆者の意図を読み取る。

【事例に関すること】

【図表に関すること】

【文章構成や表現に関すること】



カテゴリーごとに分類します。

4 文章の工夫を全体で交流し、自分の紹介文にもその工夫を生かし、本時学習をまとめる。

まとめ（今日の学び）

「具体例」を使うと、読み手を納得させやすいことがわかったから、紹介文で使いたい。

「呼びかける」読み手に自分の考えを伝えやすいから、紹介文で使いたい。



自分の紹介文に生かせそうなことを発表します。

## (福田先生の自評)

本時の目標について

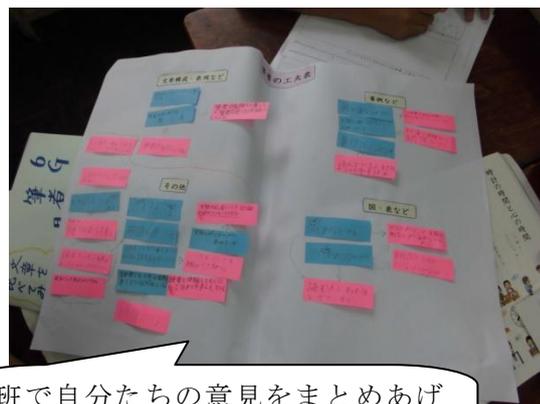
- ・目標①はグループでの活動が活発に行われた。
- ・目標②は個人差があった。6割程度
- ・目標③は筆者の意図を読み取ることは難しかった。

単元を貫く言語活動の設定の工夫について

→先生方に時計の時間と心の時間を紹介しよう。

自分の考えを伝え合う活動の工夫について

→交流スタイル「まとめる」



班で自分たちの意見をまとめあげました。

### 【協議会で話し合ったこと】

○先生たちに「時計の時間」と「心の時間」を紹介するという発想が面白かった。課題をつかませるために、先生方にアンケートをとって、それを子どもに見せたことがやる気につながったと思う。

○単元のゴールが「書く」にすることで、やる気につながる。ただ、前学年・既前単元までの既習を生かした活用がよい。「何を」「どのように」単元のゴールで活用するのかを明確にする必要がある。

○毎時間、単元のゴールに向かって自分の考えを書き溜めておいたほうが良かった。

○自分の考えを書くためには、じっくり考えて書く時間を確保する必要がある。読み取れている子と読み取れていない子に差があった。

○6年生はできるかぎり長く発表させたい。「例えば～」「○○だったとすると」といった言葉を使わせたい。



4・5年生も授業を参観させていただきました。

### 【松本指導主事の主なご指導・ご助言】

【授業に関して】

○先生に紹介するという発想が良かった。

○「まとめる」「推薦する」「問いかける」の3種類をねらいをもってされているところが良い。

●「今、全体の課題を解決するためのここをしている」というような単元のゴールと、本時とのつながりを明確にすること。

●振り返りは「こんなときに、こんなことをやったからうまくいった。」「うまくいかなかったから、今度から○○しようと思った。」という「教訓」のようなものがよい。

【研究構想に関して】

○指導案の単元計画のめあての書式が良い。子どもの言葉のめあてで統一をした方がよい。

●授業を作る際には、「教科書の手引き」を大切にすることで、解説の内容を落ちなく指導できる。

●単元計画の【思考力育成】【言語活動】は難しいので【教師の支援すること】に変更した方がシンプルで良い。

福田先生お疲れ様でした☆

自然教室の前日という怒涛のスケジュールでしたが、見通しをもって計画的に単元を構成して授業をされました。また、4、5年生も参観させてもらい、「これが授業の受け方だ」という学び方のモデルを子どもたちの姿から示していただきました。4、5年生の感想の中にも「6年生は姿勢が良かった」「班でいっぱい話し合っていた」というような感想がありました。福田先生が6年生を一貴山小学校のモデルとして愛情いっぱい指導されていることが伺えました。まだまだこれからも成長していく6年生に期待したいです。